

参考：開講時予定内容

講義名	対)経営管理特殊研究B			
担当教員	李 東浩			
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 5時限	授業形態	講義	
履修開始年次	1年生	単位数	0	備考
主題と概要				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際経営分野の理論と現実を幅広く深く把握する。 2. 国際的な定評のある専門書を参考書として使いながら、第一線の研究者による理論書書の講義をも並行する。 3. 受講生の高度な専門知識の蓄積と研究能力の養成することに寄与できるようにする。 				
到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院レベルで体系的・包括的に学問分野を学べるようになる。 2. 俯瞰的な視野で、国際経営論の奥深さと幅広さを勉強できるようになる。 3. 知っておくべき知識や理論パラダイムを身に習得できるようになる。 				
提出課題				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末試験と期末レポートはない。 2. 毎回、1頁の読書ノートを全員が提出する。ただし、輪番報告者は2頁を提出する。 				
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック				
毎回、前回の課題を振り返って解説する。				
評価の基準				
<p>期末試験と期末レポートはない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回出席し、輪番発表や討論参加は必須である。 2. 毎回、事前課題を熟読したうえ授業参加する心構えが必要。 3. 報告者は報告を、参加者は質問を、また全員は積極的に授業へ討論・貢献をすること。 <p>毎回、受講者は事前課題を熟読し、読書ノートを作成したうえ授業に参加する心構えが必要である。 輪読ではなく通読の形で全員参加する必要がある。</p> <p>毎回教員は問題提起・解題・点評・説明を、報告者は報告を（2頁の報告資料を全員分用意して、15分以内発表する）、参加者は質問・討論（全員、1頁の資料を教員へ提出する）を、全員参加型授業で進める。</p>				
履修にあたっての注意・助言他				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 大量の読書・ノートの時間は必要。最低目安：輪番報告者は週10時間、参加者は週6時間。 2. 古典を運用する。学んだ古典文献を現実社会に積極的に戦略思考と分析してみる。 3. 教員と履修者は毎回、配布必須資料のほかに、適宜、関連する文献や情報・課題をも教室までに持ち込み、全員発言討論型・参加参加型の授業を行っていく。 				

教科書				
.ない。				
プリント資料及び参考文献				
以下の著書等を使うので、授業開始前に必ず入手してください。第1回目の内容をも準備してください。				
Hill, Charles (2011) <i>International Business: Competing in the Global Marketplace</i> , 8th edition, McGraw-Hill Companies, Inc. チャールズ・ヒル (2013) 『国際ビジネス 経営環境と金融システム』 鈴木泰雄・藤野りり子・山崎恵理子訳 実業工社。巻1:pp.312、巻2:pp.470、巻3:pp.592。				
. 浅川和宏 (2003) 『マネジメント・テキスト グローバル経営入門』日本経済新聞出版社。pp.352。				
. Jones, Geoffrey (2005) <i>Multinationals and Global Capitalism: From the 19th to the 21st Century</i> , Oxford University Press. ジェフリー・ジョーンズ (2007) 『国際経営講義：多国籍企業とグロー				
授業計画				
<p>毎回、受講者は事前課題を熟読したうえ授業に参加する心構えが必要である。 輪読ではなく通読の形で全員参加する必要がある。 毎回教員は問題提起・解題・点評・説明を、報告者は報告を（2頁の報告資料を全員分用意して、15分以内発表する）、参加者は質問・討論（全員、1頁の資料を教員へ提出する）を、全員参加型授業で進める。</p> <p>回 授 業 計 画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国際経営の考え方（. 第1章、. 第1章）。 2 国際経営の戦略展開（. 第1章、. 第2章）。 3 国別の理解（. 第1章、. 第2章）。 4 国際経営貿易投資環境（. 第2巻第3部）。 5 国際経営金融環境（. 第2巻第4部）。 6 国際戦略の組織構造（. 第3巻第5部）。 7 国際戦略の事業運営（. 第3巻第6部）。 8 国際市場参入と提携（. 第3巻第14章）。 9 国際輸出入（. 第3巻第15章）。 10 国際生産と流通システム（. 第3巻第16章）。 11 国際マーケティングと研究開発（. 第3巻第17章）。 12 国際人的資源管理（. 第3巻第18章、. 第3部）。 13 国際財務管理（. 第3巻第19章）。 14 国際企業文化（. 第3部）。 15 総括：本授業で学んだ知識体系のまとめと残された課題。 				
授業形態（アクティブ・ラーニング）				
	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク	
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク	
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
<p>読書と思考・討論を習慣に付けてください。 大量の読書・ノートの時間は必要。最低目安：輪番報告者は週10時間、参加者は毎6時間。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回事前に、指定された全部資料を勉強・熟読。 2. 毎回の予習時間は、授業時間（90分=2時間相当）の2-4倍の4-8時間以上にしてください。 毎回の復習時間も、2時間くらい以上にしてください。 3. 予習内容は、次回授業内容の熟読・ノート：まとめ・発表練習・文献調査、などである。 復習内容は、今回授業内容の整理・ノート：まとめ・修正向上・文献復習、などである。 				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 批判的な思考能力を身につけ、論理的に推論・演繹・帰納するアカデミック素養を養成できる。 2. 企業や組織の経営管理の仕組みを自ら主体的な立場から理解して、身につけた知識・能力等を生かす。 3. 組織メンバーと外部関係者とも協力的に働きかけ、論理的かつ実証的に組織の経営管理の企画と実施行動に計画能力を持つことができる。 				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
全員参加型授業である。				
実務経験の有無及び活用				
なし。				
備考				
全員、事前に資料を準備したうえ、授業に臨んでください。				